

熊本大学シラバス

基本情報

授業科目名	(日)	実践臨床薬学実習
	(英)	

時間割コード		開講年次	D2年次
学期	前後期	曜日・時限	1年間(4月～3月):午前9時～午後5時
講義題目			
担当教官	丸山 徹、渡邊博志、異島優		
科目コード		科目分類	
選択/必修	選択必修	単位数	8

詳細情報

授業形態	実習
授業の目標	薬物治療及び薬剤師業務全般に精通している指導的薬剤師に必要な知識・態度・技能の習得を目指す
授業の内容	<p>学部内での事前学習を経て、実務実習を行い、フォローアップ研修で習得度を評価する。</p> <p>事前学習では、薬物治療全般に関する知識とフィジカルアセスメント及びバイタルサインに関する技能を取得する。</p> <p>実務実習では、①指導的薬剤師としての態度や倫理の習得、②薬物療法全般に関する知識の確認、③臨床薬剤師として求められる技能の習得、を学び、最終的に、④薬局窓口、ベッドサイドあるいは居宅療養先での実務実習を行う。</p> <p>薬物療法に関しては、5領域以上について学ぶが、疾病人口の多い糖尿病、慢性腎臓病、虚血性心疾患(または不整脈)、うつや統合失調症などの精神科領域、がん領域、呼吸器疾患(喘息やCOPDなど)、リウマチ、炎症性腸炎については必須分野とし、これら以外の選択領域から2つ以上を選ぶ、計10領域について、指導的薬剤師を念頭においた実習を行う。</p> <p>実習先としては、熊本大学病院薬剤部、熊本赤十字病院、熊本中央病院薬剤部、済生会病院薬剤部、熊本市民病院薬剤部、鹿児島大学病院薬剤部、セントラルファーマシー長嶺、レインボー薬局、呉服薬局、南熊本調剤薬局や大学で認定したインターシップ薬局、薬学教育部所属分野などに加えて、学生が希望する医療機関とする。</p> <p>実習終了後、臨床・医療系の学会において学会発表ができる研究・教育プログラムを作成し、実習を終了する(院生所属の分野も協力)。なお、実習中の臨床研究内容は、実習先の薬剤部長(または薬局長)と院生所属の分野長で相談して決定する。</p> <p>実習終了後に、実習内容に関するプレゼンテーション(症例報告)及びレポートを作成する(投稿論文による代用も可)。</p> <p>実習期間中に、e-ポートフォリオ(週報、月報)にて実習状況を所属する分野の分野長に報告する。</p>
キーワード	薬物治療、医薬品の適正使用、EBM
テキスト	病気と薬 パーフェクトBOOK(南山堂)
参考文献	月刊薬局(南山堂)、月刊薬事(じほう)、レシピ(南山堂)
評価方法・基準	出席状況、授業態度、レポート、口頭試問
履修上の指導	受動的に受講するのではなく、能動的に参加して欲しい。医療機関での実習の際は、医療人としてのマナーを守って受講すること。
事前学習	
事後学習	